

## 『INCHの楽しい仲間たち』 vol.8 その9

## ニュージーランドで湯治（その3）

佐伯 順弘（岐阜県）

オークランドでニュージーランドに初上陸し、ファンガレイで巨大樹木カウリに挨拶した後、ロトルアへと移動した。そのロトルアでは本来の目的である湯治を果たした。というか、巨大なスパランドでただ数時間のんびりした。そして、旅は折り返し、オークランドへ向かうのであった。



## DAY6 (13AUG2013) ロトルア→オークランド

0730 起床、コーヒーと小さなパン1つだけの朝食、シャワーなど身支度は素早い。



出発の準備も素早く整えるが、つい「乗鞍青年の

家」仕込みの整頓をしてしまう。来た時よりも美しくが基本である。（別にユースホステルはそれを要求しているわけではない。単なる個人的な習性である。そうしないと、どうしても気分がよくないだけである。本来はピローカバー、シーツも外して、リネン室にもっていく。）

さらば、ロトルア YH。期待通り快適な YH だった。すぐ、バスターミナルに向かい、バスチケットを入手する。当然、時刻表など調べていない、行き当たりばったりのスケジュールである。それはスケジュールと呼ばないのではないかという指摘は無視させてもらう。これが私のスタイルなのである。当然、旅仲間もそれに巻き込まれることになるが、彼もこういうことには動じないので全く問題はない。我々は予定をこなしているのではなく、旅をしているのだ。



（観光案内所兼バスターミナル。足湯もある。）

0920 バスチケットを入手。ロトルア→オークランド 29NZ\$。出発まで時間があつたのと、朝食がやや少なかつたため、近くのロックダネルに入る。ピエロがいるバーガー屋である。



チーズスコーン+フラットホワイト(M) 5.8NZ\$。  
さっき食べたのと変わらないじゃないかと言われ  
そうだが、別に同じでも全く問題はないのである。  
食べたいのだから、健康にいいのである。食べたい  
ものを食べたいときに食べるという、欲望に身を任  
せる生活も旅の醍醐味である。ここは、ロックダネ  
ルにしてはうまかったので、なんだか優しい気持ち  
になった。



その後、ポストオフィスで絵葉書を書き、投函。  
どの国のポストも日本と同じ赤ではないのだが、こ  
このポストは赤い。今までの旅で見たのは、赤、青、  
黄、緑である。きっと他にもあるに違いない。でも、  
たぶん原色目立つ系の色であることは想像に難く  
ない。そんなことを愚考した後、YH周辺を散策し  
尽くし、空腹を感じた頃、ふと時計を見ると昼飯時  
である。



偶然、目の前にあったのが、多くの国でオレ御用  
達のバーキン（BurgerKING）である。Meal  
9.1NZ\$。朝食、昼食とジャンクフード連続でも全  
く問題ない。世界で覇権を争うジャンクフード業界  
の勢力分布とその品質を見極めんとする探究心か  
らの行動である。さて、やっとバスの出発時間が近  
づいたのでバス停へ。



1310バスはオークランドに向けて出発。下手に  
起きていくら快適な海外のバスだとは言え  
乗り物酔いする可能性もあるので、寝る。

1710バスはオークランドに到着。



1730 Surf&Snow というユーミンの曲みたい  
なバックパッカーズインに落ち着く。今までの宿と  
比べると圧倒的に騒がしく、落ち着かない。落ち着  
くのが落ち着かないのかどっちなんだ！と正確な  
ところを問いただされても、そんな気がするとしか  
言えない。何かが警報を鳴らしているのだ。オー  
クランドは大きな都市だから、騒がしくて当然かも。  
しかし、東京のビジネスホテルは静かで落ち着く。  
新宿区役所前カプセルホテルでも静かで落ち着く。  
この宿の妙な騒がしさ、落ち着かなさの原因は後々  
わかってくることになる。それはそうと、夕方であ  
る。夕食の時間である。共同キッチンもついている。  
となれば、街の散策を兼ねてニュージーランドビー  
フの買い出しである。



酒と言えば、基本属性はウィスキー派なのだがワ

インも日本酒もビールもウオッカもジンも焼酎も嫌いではない、いや好きである。今回はニュージーランド産のワインも買ってみた。もちろんチーズと冷凍のミックスペジタブルも。

共同のダイニングキッチンに行って、宿に到着してから感じていた違和感の理由がわかってしまった。日本人がたくさんいる。しかも、ここでバイトしている集団が、自己管理ができそうにない雰囲気を出し、傍若無人な様子で騒いでいる。日本人は徒党を組むと途端に下品になる。訪問者であることを忘れてしまうらしい。こういう輩が日本代表だと思われるのは甚だ不本意だが、いくら教師と言えど、ここで説教などするはずはない。彼らを視界に入れないようにして、ワインを2本空けた後、夜のオークランドを散策。寒いことは寒いがなんかぬるい寒さであり、全く冬らしくない。



なんか、タワーってどこでもあるなあと見上げる。ライトアップがいい感じである。



こういう店もある。カラオケパブ迎賓館なのかラーメン一番なのか、どっちなんだ！とことでカラオケと言えば、それは世界制覇したと言えるのだろうか。ま、どうでもいいことだが。

### DAY7 (14AUG2013) オークランド滞在

0700 起床。

1000 スカイジャンプ。

スカイジャンプである。スカイジャンプとは何ぞ

や。それは昨夜見上げたタワーからロープで宙吊りになって降りてくるというアトラクションである。もちろん、いい感じでブレーキがかかっているのが無事地上に降り立つことができるのだが、とても正気の沙汰とは思えない。



パキスタンの 5000m 峰に登るほどの私ではあるが（自慢にならないがちょっと自慢）、それは大地に足がついていてこそであり、ロープで宙吊りなど考えただけでキュッとしてしまう。しかし、旅仲間には喜んで跳んだ。そう、人の趣味嗜好は様々である。だからこそ、面白い。恍惚に包まれた表情を浮かべる彼に対して、惜しめない拍手を送ったのは言うまでもない。

1210 オークランド戦争博物館



へらへらしているが、戦争博物館は甘いものではなかった。現代の感覚であの当時を判断することはできないのだが、その記憶をどう展示するかは考えられるべきである。正しい、間違っているではなく、これからの我々の行動にどう生かすかを考えるべきである。そんな思いで見学した。ニュージーランドの人々、特に学生たちはどのような思いでこれらの展示を見たのだろう。一方、日本にはこういった

展示がどれだけあるのだろう。そして、それにどれだけだけの学生が足を運ぶのだろう。善悪ではなく、事実を知り、それをもとに何をなすべきかを考えるという活動をしているのだろうか。



日本のゼロ戦や英国のスピットファイヤーが展示されていた。なぜここにこれが置いてあるのかわからない。自分の不勉強さを恥じる。その他にも日本軍の火炮などが展示されていた。

1700 部屋に戻り、暫し休息。心が疲れた。

1740 夕食へ。少しはレストランにも行こう、海の幸も食べようということで、出かける。



ビール、ムール貝、生ガキ、フライドポテト。特に生ガキがうまい。旅仲間は当たるのが怖いと回避。一人だけでおいしくいただいた。スコットランドでも生ガキ食べまくったけれど、大丈夫だった。当たったことがあるのは日本のすし屋でマテ貝を食べて当たったくらい。牡蠣では当たったことはないのだ。もちろん、体調がいいときしか食べないけ

れど。確かに旅先で当たったら大変なことになるだろうが・・・。

### DAY8 (15AUG2013) オークランド滞在

昨日の博物館をやや引きずっている。敗戦記念日である。昨夜食堂で、一人旅の男からランギトト島というところが良いという情報を得て、急遽そっち方面に舵を切る。0915 フェリー-28NZ\$。溶岩でできたむき出しの火山島。少しずつ植物が生えて緑の島になっていく様子を巨大な博物館のように展示してある。理科学的に非常に興味深い場所である。



この火山島でもトイレは清潔に整備されていた。



終日ランギトトで過ごし、1700 宿に戻る。ここで旅仲間が昨日の生ガキがどうしても心残りだということで同じ店に行き、生ガキを食べる。

### DAY9 (16AUG2013) オークランド→成田

0430 起床

0610 空港着

0630 チェックイン

0645 空港で地下鉄サンドを朝食として食す。出発する時も帰国する時も空港は気分がいい。飛行機が好きなのか、移動する感覚がいいのかわからないが空港で過ごす時間はいつも楽しい。出入国審査も緊張するけど、かなり楽しんでいる。

0835 発→1930 着 (日本時間 1630) というわけで、湯治と生ガキの旅はこれにて終了。(終)